

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成19年11月発行 NO:9号



キバナキョウチクトウ

九州森林倶楽部平成19年度第3回イベント 「八重山諸島自然観察会」を支援

10月26日から28日にかけて、九州森林管理局主催の九州森林倶楽部第3回イベントが八重山諸島で実施されました。

当ふれあいセンターでは、26日の石垣島野底岳登山及び27日の西表島自然観察について同行し、植物探索等の支援を実施しました。

参加者は、石垣島野底岳の原生自然植生に目を奪われるとともに、山頂からの珊瑚礁海域の眺望に大きな歓声を上げていました。また、西表島では、仲間川サキシマスオウノキの巨木を見学、移動した大富展望台から日本最大のマングローブ林を眺望した後、大富遊歩道沿いの植物を熱心に観察していました。

最高齢78歳の参加者も大富遊歩道の展望台から歩道入り口までの全線を歩き通すなど熱心な観察となりました。



仲間川のマングローブ林を観察



野底岳山頂にて



西表島の南風見国有林における観察会

平成19年度環境保全型観光促進事業仲間川ワーキング会議（第1回）

10月9日、西表島の大原（竹富町離島振興総合センター）において沖縄県委託の平成19年度環境保全型観光促進事業に係る第1回ワーキング会議が開催されました。

会議では、事務局から仲間川の保全のあり方、モニタリング方法等についての説明がありました。その後、質疑を行う中で委員（地元代表、仲間川保全利用協定締結事業者、関係行政機関、NPOなど）から「仲間川の保安全管理などのためには旅行業者の理解を得ていくことが重要」等、今後の取り組みについての意見がありました。



熱心に保安全管理の方策を検討

ニッパヤシモニタリング9月期調査を実施

秋晴れならぬ夏を思わせる晴天の9月27日に、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。

当日の調査は、汽水域の地盤高の変化を探る水準測量、及び観測記録2番目となる風速65.9mを記録した台風12号通過後の開空度（樹勢の尺度である葉量の程度を見る空の開け具合）を調査したものです。台風により、ニッパヤシの葉先が折れたり葉が飛ばされるなど大きな被害を受けました。



台風12号の被害を受けたニッパヤシ

ニッパヤシの群落は汽水域のマングローブ林の中にあり、まだ潮が引いてない場合はハイウェーダを履いてジャブジャブ進むこと30分かかります。調査に当たっては、水が引いた泥地の中を地盤が変化しないよう慎重に作業を行う必要があります。

当日は、台風被害で枝・葉が飛んだ林内は日陰もなく、汗ビシヨリの熱帯地獄の作業となりました。



地盤高を測量中の職員

マレーシアから西表島の森林・林業などを視察

9月20日、マレーシアのサバ州職員18名が琉球大学馬場繁幸教授（国際マングローブ協会会長）の案内で当センターを来訪しました。西表島での視察を予定していたところ、18日の台風12号の被害のため視察が困難となり、急遽、当センターへ説明の要請があったものです。

当センターの職員が、西表島の概要及び森林・林業についてパワーポイントをを用いて説明しました。急な来訪で十分な説明内容ではありませんでしたが、熱心な聴講と、多岐にわたる質問があるなど要請に応えることができました。

最後に、ROSILA ANTHONY氏からお礼の言葉もあり大変感謝されました。



浦内川マングローブ林モニタリング調査を実施

浦内川マングローブ林で倒伏枯死する現象が起きていることから、その原因を調査分析するとともに、その結果をふまえてマングローブ林を保全するための対策を実施することを目的として、平成17年度から浦内川マングローブ林のモニタリング調査を実施しています。



マングローブ林のモニタリング

今年度は、10月23・25日の2日間にわたり、マングローブ林の枯死状況、成長状況にかかるモニタリングが台風が9月の12号、10月の15号ともに60mを超える強い台風による暴風と洪水による被害及び遊覧船の曳き波被害の影響も懸念されるところです。

特に、河川林縁では、倒木、倒れ木、立ち枯れ木等の被害が多く見受けられました。

これからまとめを行い報告することとしています。

平成19年度ヒナイ川利用状況調査（9月分）報告

9月期ヒナイ川利用状況調査を9月12日（水）実施しました。

今月の実績は、ツアー別ではガイド付きカヌーツアー20組（114名（ガイド含む））、レンタルカヌーツアー3組（5名）、徒歩1組（3名）の計24組（122名）となりました。

今年の八重山地方は台風シーズンに入っても大きな天候の影響がなく穏やかな日々が続いていることから、カヌーツアーが順調に実施されました。特に、9月に入ってから航空運賃も安くなり、東京、大阪からの若いOLのお客さんが多く見受けられました。天候にも恵まれ、初めてのカヌー体験とピナイサーラの滝からの素晴らしい眺望ができ、満足した笑顔を見ることが出来ました。



ツアー一行とガイドの記念写真

台風12号が西表島に上陸・縦断

9月18日、西表島に非常に強い台風12号が上陸・縦断しました。当日は、西表島で風速65.9mと観測史上2番目の風速を記録し、大きな被害をもたらしました。

島民の話からすると昨年（平成18年）の台風13号の69.9mより体感風雨は強く、電気、電話等のライフラインへの被害も甚大でした。

西表島の森林も昨年の台風被害から少しずつ回復していましたが、また、枝折れ、倒木等、大きな被害を被りました。自然植生の回復力を期待し見守るだけです。



大きな被害を受けた森林



被害を受けた車両（大原港）

7月19日実施した石垣市立平真小学校の樹木調べ支援の続報

樹木調査

樹木の名称を調べるのは難しい。
そこで、林野庁の林野さんに協力依頼をしました。
西表森林環境保全ふれあいセンターの志山先生、山下先生がこころよく、
平真小学校の樹木調べをしてくださりました。



7月19日に石垣市立平真小学校の樹木調べを支援しましたが、その後、学校では「花と緑あふれる学校づくり」として取り組み、結果を下記のとおりホームページに紹介しています。

石垣市でおこなわれている「花と緑あふれる学校コンクール」。毎年かならず入賞しているのが平真小学校。平真小学校といえば、自然あふれる学校として「花と緑あふれる学校づくり」をめざして、がんばっています！

また、当センターで支援した樹木調べの様子についてもホームページで紹介してあります。皆様、是非、平真小学校のホームページを訪問してください。

西表島の樹木

今回は、汽水域に近い周辺に生育する植物を掲載します。

アダン(*Pandanus odoratissimus* Syn.*P. tectorius*) 別名シマタコノキ、リントウ、漢字で「阿檀」
タコノキ(*Pandanus boninensis*) 別名オガサワラタコノキ、漢字で「小笠原蛸の木」

科：タコノキ科 *Pandanaceae* 属：タコノキ属 *Pandanus*

分布は、アジア・アフリカの旧熱帯とポリネシアに3～4属700種あまりが分布する。単子葉植物タコノキ目の科。日本では小笠原と沖縄に自生種がある。不耐寒性の常緑高木あるいはつる植物である。

タコノキ類は、植物上の分類はタコノキ科という仲間に属しています。幹の節から太い気根をいくつも伸ばし、タコの足に似ていることに由来している。

【アダン】

海岸近くに生える高木で高さ3～5mくらいになり、多数の支柱根を垂れる。葉は硬い革質で鋭い刺がある。集合果は球状楕円形で多数の核果が集まっている。

タコノキとの区別は、アダンの方が濃いオレンジ色になる事、葉のトゲトゲが白い事で見分けられる。

果実は熟すとバラバラになって海水に浮き、漂流して分布をひろげる。

葉は、カゴや敷物など多くの用途がある。

アダンの名は琉球の現地名に由来(台湾名に由来するとも)。学名の *Pandanaceae* はマレー語に由来する。



【タコノキ】

沖縄によく自生しているアダンの親戚であるが、タコノキは学名の通り、小笠原の特産種である。

雌雄異株の小高木で、葉は乾燥に強いやや肉厚の刀剣状で、まさに鋸のような鋸歯がついている。気根を出し、根元は沢山のつかい棒で支えているように見える。

初夏に黄白色の雄花、緑色の雌花を付け、アダンと同じ様な大きな実となる。秋には赤黄色に熟して、食用になる。

オガサワラタコノキ、あるいはキアダンとも言う。学名の *boninensis* は「小笠原の」という意味である。



林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>